

平成28年5月10日

豊田市議会議長 神谷和利 様

豊田スタジアムを生かした

まちづくり特別委員会

委員長 都築繁雄

委員派遣実施報告書



本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 派遣期間 平成28年4月20日（水）～22日（金）
- 2 派遣先 及び内容  
20日（水）…埼玉県熊谷市  
／ラグビーワールドカップ2019に向けた  
おもてなしのまちづくりについて  
21日（木）…岩手県熊谷市  
／釜石鵜住居復興スタジアム（仮）整備に向けた  
取組について  
22日（金）…岩手県花巻市  
／北東北の玄関としての観光の取組について
- 3 派遣委員 委員長 都築 繁雄 副委員長 桜井秀樹  
委員 松井 正衛 岡田 耕一 三江 弘海  
小島 政直 加藤 和男 板垣 清志  
窪谷 文克 塩谷 雅樹 岩田 淳
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 藤野晃浩、近藤乃介

## 視察報告書【1】

委員会名	豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会	委員名	都築繁雄
視察日時	平成28年4月20日（水）午後1時～午後2時30分		
視察先	埼玉県熊谷市		
視察内容	ラグビーワールドカップ2019に向けたおもてなしのまちづくりについて		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「来訪者を迎えるためのおもてなし」について調査研究の参考とするため		
本市議会の現状と課題	<p>本市でラグビーワールドカップ2019の開催が決定。今までにならない国際的大規模イベントであり、大会に向けた市民意識の高揚や、観客の大量輸送など課題は多いが、観光面などにおいては地域との連携を進め、地域活性化に結び付けていく好機でもある。</p> <p>また、市の顔となる駅前・中心市街地では、市街地再開発事業や都心環境計画によるまちづくりが進んでおり、いっそうスピード感を持った取組が求められる。</p>		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●輸送・交通           <ul style="list-style-type: none"> <li>①会場及び周辺道路の現状（駅から会場までの交通手段の確保とともに、楽しく歩く仕掛け）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・メイン駅から会場までの4キロの移動手段の確保。連結バスの導入検討や楽しく歩くための仕掛けづくりを考えている。</li> <li>・会場へのメイン道路は県道のため、県との共催という視点で取組（整備）強化。</li> </ul> </li> <li>②交通輸送に関する環境整備の方向性（選手、関係者、観客に対するそれぞれの円滑な輸送サービス、）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手、大会関係者と観客の輸送ルートの分離を検討。</li> <li>・自家用車の利用者に対してはパーク＆ライドを推奨。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●ラグビーワールドカップイングランド大会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、議会、商工会議所などで一緒に視察。約50Pの報告書を作成。</li> <li>・異なる立場から、開催自治体の取組を視察し、共通の課題などを見つけることができた。</li> </ul> </li> <li>●ファンゾーン：複数設置や街なか滞留の仕掛けづくりなど、効果的な方法を考えている。</li> <li>●市民意識：昭和30年代以降の地道な取組や高校ラグビー大会の開催地もあり、元々ラグビー熱が高い地域。</li> </ul>		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政面や人員面で県との連携がよくはかられている。</li> <li>・選手・大会関係者と観客の輸送ルートを分離して検討している。また、一般道の交通規制についても視野に入れている。観客向けには連結バスの導入を検討しており、既に導入できるかどうかの検証も進めている。また乗用車で来場する観客にはP&amp;Rを推奨し、駐車場は新たな設置ではなく、民間大型施設などの既存施設を利用する想定している。</li> <li>・元来、ラグビーに対する意識が高い地域である。</li> <li>・駅～会場を楽しく歩く仕掛け道路網の整備。</li> <li>・ラグビーワールドカップ準備室を開催決定と同時に設置している。</li> <li>・大会組織委員会への助成、啓発活動、基金の設置など、大会成功に向けて様々な取組を進めている。</li> </ul>		

本市議会に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンゾーンのあり方や設置場所について回遊性や市への滞在、街なかでの滞留、さらにはファンゾーンへのアクセスなど既に検討を始めている。また、自分の市を単なる通過地点にせず、お金を使ってもらう仕組みづくりを検討しており、ファンゾーンでは地元グルメの提供や特産品販売を検討している。</li> <li>・連結バスの導入に関して、配置やルートの検証。</li> <li>・駅からのバス輸送だけではなく、メイン駅～会場を楽しく歩いてもらうための仕掛けづくり。</li> <li>・熊谷市ではタグラグビーを全校へ導入し、市民意識の醸成に寄与している。今のラグビー熱の高まり→タグラグビーの導入→市民意識の向上という流れ。</li> <li>・競技場が県営、メイン道路が県道ということもあり、共催である県との更なる連携強化。</li> <li>・ラグビーの町としての基礎がある中で、準備室の設置をはじめ、色々な取組をスピード感を持って、具体的な取組を検討。また、庁内体制を一本化してスピード感を持って取組んでいく。</li> </ul>
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催市としての意気込み（熊谷市ではこの大会が成功しないと街が存続しないという想い）</li> <li>・大会に向けた行政の庁内体制。</li> <li>・準備に時間がかかるハード整備を優先的に進めている。</li> <li>・本特別委員会が昨年度と今年度予定している海外視察から、ソフト面の取組も提言に入れていく必要がある。</li> <li>・大会成功には市民意識の醸成が大切。豊田市ではタグラグビーの展開と県への働きかけが必要である。</li> <li>・市民に興味を持ってもらうため、様々なイベントを実施し、節目ごとに目標値の設定が必要。</li> <li>・本市ではまだラグビーというスポーツが浸透していないと感じる。大会までの残りの期間ですべきことを整理して取組んいかなければならない。</li> </ul>

## 視察報告書【2】

委員会名	豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会	委員名	都築繁雄
視察日時	平成28年4月21日(木) 午後1時30分~午後3時		
視察先	岩手県釜石市		
視察内容	釜石鵜住居復興スタジアム（仮）整備に向けた取組について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「国際都市 豊田市としての顔づくり」「来訪者を迎えるためのおもてなし」について調査研究の参考とするため		
本市議会の現状と課題	<p>本市でラグビーワールドカップ2019の開催が決定。今までにない国際的大規模イベントであり、大会に向けた市民意識の高揚や、観客の大量輸送など課題は多いが、観光面などにおいては地域との連携を進め、地域活性化に結び付けていく好機でもある。</p> <p>また、市の顔となる駅前・中心市街地では、市街地再開発事業や都心環境計画によるまちづくりが進んでおり、いっそうスピード感を持った取組が求められる。</p>		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(仮)鵜住居復興スタジアム概要           <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災復興として、東北地方で開催される。開催12都市中、唯一新規にスタジアムを建設する。</li> <li>・釜石の奇跡といわれる鵜住居地区の小学校跡地に32億円をかけ、面積9万km<sup>2</sup>、座席16,000席の(仮)鵜住居復興スタジアムを建設。</li> <li>・復興スタジアムの4つのコンセプト               <ul style="list-style-type: none"> <li>①世界とつなぐ、②市民をつなぐ、③安心をつなぐ、④未来へつなぐ。</li> </ul> </li> <li>・鵜住居地区では高台移転、商業施設集約など、復興事業に取組む。</li> <li>・スタジアム建設に対して住民への配慮。検討委員会を設置し、パブコメなどを実施しながら丁寧に事業を進めている。</li> <li>・大会が終了した後の活用方針についても、市民への一般開放利用などを検討している。</li> </ul> </li> <li>●大会に向けた取組体制           <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政として担当職員の増員や県との連携強化、庁内組織強化を進める。</li> <li>・市民団体として「RWC2019釜石開催支援連絡会」を立ち上げ、市民の立場からも大会成功に向けて取組んでいる。</li> </ul> </li> <li>●開催地決定について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーの街であるが、まだ仮設住宅なども多く、東日本大震災から復興道半ばでの開催立候補に対する市民感情。</li> </ul> </li> </ul>		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタジアム建設費用について、他のスタジアム改修材を再利用するなど、費用の軽減を図っている。</li> <li>・海に近い立地条件を生かし、クルーズ線の利用などによるアクセス向上を目指している。</li> <li>・復興のシンボルとも言えることから、全面的に国が応援している。また東北の他の県や市町村などの協力も得ている。</li> <li>・県と市との相互職員派遣など、連携を強化している。</li> </ul>		

評価と その理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会応援のため、市民団体（開催支援連絡会）を設立している。</li> <li>・大会終了後のスタジアム活用策についても検討を始めている。</li> <li>・キャッチフレーズ「鉄と魚とラグビーのまち」や、スタジアム活用に関する明確なコンセプトを打ち出し、ラグビーの町・釜石を世界に発信していくという取組を進めている。</li> <li>・5つの利用形態機能。RWC大会運営がスムーズに行える諸室。日常利用、フレキシブルな利用、スポーツ・イベントの同時開催、プロスポーツ対応可能、鵜住居駅周辺メモリアルゾーンと連携する観光プログラムの整備。</li> <li>・ラグビーワールドカップ準備室といった行政の取組体制。また、市民団体である開催支援連絡会の設立。</li> </ul>
本市議会に 反映できる こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何が何でも成功させるという強い意志。少なくとも職員・議会が大会成功への一体感を持つことが大切である。</li> <li>・県と市との共催であることから、県との協議や、派遣職員などにおける連携強化が必要。</li> <li>・市民団体として開催支援連絡会を立ち上げている。</li> <li>・観光協会、旅行会社との連携。市の財産をフルに活用、またセットにした取組。</li> </ul>
その他 (意見・課題 など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災の影響で活気不足を感じたが、市の成功に向けた執念は感じた。</li> <li>・復興事業や自治体規模のこともあり、単市では事業が厳しく、国や県の全面応援を受けていることが、逆に連携強化に結びついており、豊田市とは異なる。</li> <li>・新日鐵釜石のV7メンバーの協力は効果的。本市でも、グランパス、ヴェルブリッツにも頑張ってもらい、各種取組への協力をいただくことも効果的。V7メンバーの貢献や地域への愛着というのはアピールポイントと思う。</li> <li>・復興途中での開催ということで、意見はいろいろあったとのこと。ぜひ今回の開催で、釜石の復興の姿を発信してほしい。この大会の成功が、釜石の復興となると思う。</li> </ul>

### 視察報告書【3】

委員会名	豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会	委員名	都築繁雄
視察日時	平成28年4月22日(金) 午前9時30分~午前11時00分		
視察先	岩手県花巻市		
視察内容	北東北の玄関としての観光の取組について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「来訪者を迎えるおもてなし」のための調査研究の参考とするため		
本市議会の現状と課題	<p>本市でラグビーワールドカップ2019の開催が決定。今までにない国際的大規模イベントであり、大会に向けた市民意識の高揚や、観客の大量輸送など課題は多いが、観光面などにおいては地域との連携を進め、地域活性化に結び付けていく好機でもある。</p> <p>また、市の顔となる駅前・中心市街地では、市街地再開発事業や都心環境計画によるまちづくりが進んでおり、いっそうスピード感を持った取組が求められる。</p>		
視察概要	<p>●観光事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花巻市市街地から車で15分程度にある花巻空港や東北自動車道、北海道新幹線の開通による交通結節点にあり、国内のみならず海外からの観光誘客にも取り組んでいる。</li> <li>・観光データからみると、震災後の観光客減少から緩やかに回復基調にある。</li> <li>・観光事業の概要（空港利用促進事業、観光イベント開催事業、広域観光推進事業、観光情報発信事業、観光ルート整備事業、まちぐるみ観光事業、観光施設維持事業、観光案内版整備事業、外国時観光誘客促進事業など）</li> <li>・観光団体（一般社団法人花巻観光協会 専門性を活かせるよう元旅行社社員を専務理事に。花巻温泉郷観光推進協会、公益財団法人岩手県観光協会、いわて観光キャンペーン推進協議会）</li> <li>・その他、今年度国体の開催では県をあげて取組む。また、3年後のラグビーワールドカップ2019(東北では釜石市で唯一開催)では、交通要衝エリアとして支援。</li> </ul>		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる観光客誘致を目指している。とりわけ外国人観光客の確保に向けた花巻空港を生かした取組を進める。</li> <li>・広域的観光に取組むため、釜石市や県を越え、周辺市との職員交流を進めている。</li> <li>・観光協会に元旅行社社員を専務理事、市職員を局長として採用している。</li> <li>・インバウンド観光を促進するため、台湾、中国をターゲットにした取組を行う。明確にプランに広域観光ルート形成。</li> <li>・観光客向けに、団体旅行貸切支援など観光促進支援などを行っている。</li> <li>・観光資源を上手に活用、仕組みとして定着。空港をいかすためにも国内のみならず外国誘客は評価。</li> <li>・RWC開催に向けた東北横断自動車道の開通により、移動時間が1時間と想定。復興の加速、象徴となるよう釜石の成功を支援。</li> </ul>		

本市議会に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光産業の活性化にむけて、経験のある人材の登用など、観光協会に対する取組、考え方。</li> <li>・周辺市町村、東海圏都市との広域連携。</li> <li>・ジャンボタクシーなどを活用した市内観光の試験的実施。</li> <li>・職員の出向や予算面など、行政と観光協会の連携。</li> <li>・得意分野、専門性を生かしたボランティアガイドの育成。</li> <li>・旅行会社、観光協会、行政が連携し、観光客に対する団体旅行貸切支援などの取組。</li> </ul>
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年に愛知県で行われた愛・地球博の検証は、交通、宿泊、人の流れなどにおいて、委員会のまとめのヒントになるのではないか。</li> <li>・周辺連携が必要だが、豊田市は他市に劣る点も多い。まちさと未来塾の大展開など、戦略を持って進めていかなければならない。</li> <li>・おもてなしのまちづくりの推進には、市、市民、企業、ボラ、NPO、自治区等が自発的に活動することや、共働が欠かせない。</li> <li>・新しく観光協会を立ち上げ、役割分担を明確にし、今後の豊田市の誘客施策のあり方を検討する必要がある。</li> </ul>